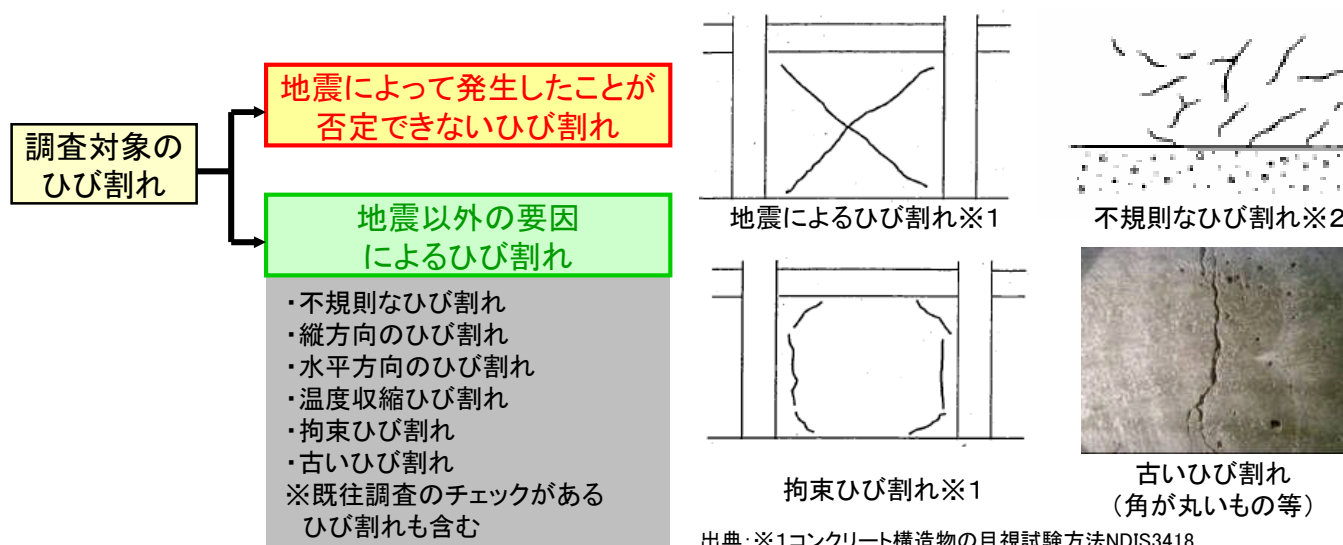


1. 調査対象のひび割れについて

●鉄筋コンクリート構造物について、目視点検により確認したひび割れを「地震によって発生したことが否定できないひび割れ」と「地震以外の要因によるひび割れ」に下記図-1に示す観点から分類しました。

●「地震によって発生したことが否定できないひび割れ」の点検結果により、構造上問題となるひび割れの有無を確認しました。



出典：※1コンクリート構造物の目視試験方法NDIS3418
(社団法人日本非破壊検査協会)
※2建築物の耐久性向上技術シリーズ 建築構造編 I
鉄筋コンクリート造建築物の耐久性向上技術：
建設大臣官房技術調査室 監修
(財)国土開発技術研究センター 編

図-1 ひび割れ分類

2. 建物の健全性について

●各建屋の点検結果では、構造上問題となるひび割れがないことを確認しました。

●6/7号機については、点検結果の妥当性について、国や第三者機関の確認を受けました。

●今後、1～5号機においても点検結果の妥当性について、国等の確認を受けます。

3. ひび割れの補修について

●今回の点検で確認されたひび割れは、構造上問題となるものではないが、耐久性の観点(鉄筋腐食防止等)より、以下のとおり補修を行います。

(1)地震によって発生したことが否定できないひび割れ

今回の地震によって発生したことが否定できないひび割れは、全てのひび割れを適切な方法で補修を行います。

(2)地震以外の要因によるひび割れ

地震以外の要因によるひび割れは、これまでどおり、適切に管理・補修を行います。

1～7号機のひび割れ状況について

○耐震壁(補助壁※)の地震によって発生したことが否定できないひび割れの状況を下表に示す。

号機	建屋名	部 位	本数	最大幅(mm)	最大長さ(m)
1	原子炉建屋	耐震壁	18	0.8	6.0
		補助壁	175	0.4	5.0
		合 計	193	-	-
	タービン建屋	耐震壁	217	0.7	7.0
		補助壁	14	0.3	4.0
		合 計	231	-	-
	海水熱交換器建屋	耐震壁	15	0.4	2.9
固体廃棄物貯蔵庫	耐震壁	5	0.2	5.0	
2	原子炉建屋	耐震壁	55	0.4	3.0
		補助壁	86	0.5	5.0
		合 計	141	-	-
	タービン建屋	耐震壁	262	0.6	10.0
		補助壁	68	0.5	5.5
		合 計	330	-	-
	海水熱交換器建屋	耐震壁	7	0.4	3.5
3	原子炉建屋	耐震壁	72	0.5	4.5
		補助壁	128	0.45	6.0
		合 計	200	-	-
	タービン建屋	耐震壁	315	0.55	7.5
		補助壁	6	0.2	4.3
		合 計	321	-	-
	海水熱交換器建屋	耐震壁	10	0.55	4.6
4	原子炉建屋	耐震壁	52	0.3	4.0
		補助壁	87	0.4	6.4
		合 計	139	-	-
	タービン建屋	耐震壁	123	0.45	5.0
		補助壁	19	0.4	5.0
		合 計	142	-	-
	海水熱交換器建屋	耐震壁	0	-	-

1～7号機のひび割れ状況について

号機	建屋名	部 位	本数	最大幅(mm)	最大長さ(m)
5	原子炉建屋	耐震壁	38	0.6	3.8
		補助壁	3	0.25	2.4
		合 計	41	-	-
	タービン建屋	耐震壁	69	0.4	5.3
		補助壁	14	0.4	5.0
		合 計	83	-	-
海水熱交換器建屋	耐震壁	3	0.3	2.7	
6	原子炉建屋	耐震壁	24	0.35	4.5
		補助壁	52	0.25	3.1
		合 計	76	-	-
	タービン建屋	耐震壁	167	0.65	7.0
		補助壁	36	0.65	4.2
		合 計	203	-	-
	コントロール建屋	耐震壁	9	0.35	2.5
		補助壁	12	0.35	2.7
		合 計	21	-	-
7	原子炉建屋	耐震壁	11	0.3	3.0
		補助壁	50	0.3	3.5
		合 計	61	-	-
	タービン建屋	耐震壁	124	0.65	4.0
		補助壁	14	0.45	3.5
		合 計	138	-	-

※補助壁は、耐震壁に加えて地震応答解析に考慮した壁を示す。

※1～5号機のひび割れ本数、幅および長さは、国等の評価により変更となる可能性があるため、暫定値である。